

「ウチダザリガニ」モニタリング報告

考察

昨年のA・E地点の調査地点はほとんど捕獲されなかったため取りやめた。

調査地曾原湖の4地点で昨年に引き続き同じやり方で同じ餌で行った。

捕獲数が少ない理由については現状ではわからないが、調査地点のキャンプ場や貸ボートの方に聞いても今年は特に見かけなくなったという声が聞かれたので個体数が何らかの理由から減ってきていると思われる。

曾原湖では個体数が減少しているようだが上流部のレイクウッド沼にはまだ多くの個体が生息しているようだ。引き続き調査方法なども含めて考えたいと思う。

駆除活動については以前から生息の多いレイクウッドの沼を駆除・調査活動の拠点とし、餌も生の魚・キャットフード・あたりめを使用してみた。蟹かごが大小になったのもあり、今回は正確には餌の違いについてははっきりとは判断できない。

レイクウッド沼は37年前のペンション造成地を作ることでできた沼のようだ。以前は曾原・狐鷹森地区にある築部沢山からの沢の一つで曲沢沼へ流れていた沢の一つで水芭蕉など見られる湿地だった。おそらく造成により流れが悪くなり水嵩が増し、沼として広がったものと思われる。

ペンションは37年前より合併浄化槽（地下浸透型）を設置しているが、バブル時にはかなりオーバーフローしたものが入り込み汚濁が進んだと思われる。流れの入る曲沢沼のコカナダモ発生も関係があると思われる。

観光協会のウチダザリガニプログラムもザリガニ沼で行われており（別紙参照）小さなザリガニ沼で生息しているには捕獲される個体が多いことから、レイクウッド沼から下りてきているのではないかと思われる。

7月・9月の子供たちで行った調査でザリガニ沼周辺の水路などを網を使って捕獲した1cm・2cm未満の個体数の多さと、水路の先の曾原湖の個体数の減少との関係はまだ良くわからないので引き続き調査していきたい。

10月のレイクウッド沼調査時に捕獲した抱卵した雌のウチダザリガニがどのように氷った沼の下で6か月以上卵を守っているのか大変興味がある。

10月終わり、11月に調査できず、卵の数を数えることができなかつたのが大変残念だったので、来年度は実施したいと思う。

調査者

真野真理子・伊藤延廣・立花千秋（裏磐梯エコツーリズム協会）

五十嵐 悟（NPO法人わかば自然楽校）

駆除作業参加者（順不同）

友坂 豊 友坂洋子 長岡幸二 鈴木美保 砂川光朗 新井 徹 小野明 生江公俊
酒井美代子 さくら小 裏磐梯小 （株）ニチレイ